

ベストピア Bestopia

ベストピアは
小原靖夫の
個人誌です

2012年10月
第308号



抱かれてある歓びⅡ

序、台風直前の愛餐会

- ① 2012年9月30日は半年に及ぶ準備で、歓びに満ちて終わりました。強い台風17号が日本列島と縦断するなか、ニュースとにらめっこしながら内心はらはらし、「みこころのままに」とは言え、台風の速度の遅くなることを祈りました。遠くは長野県、山梨県（中央線の利用しか交通手段がありません）からも教友が集まります。人の小賢しい思いを超えて台風は速度を少し遅めてくれました。万事が益となる力が共に働いてくださり3時に終了、遠方の方もストップ寸前の列車に間に合い無事帰宅されました。この寸暇は恵みです。
- ② この日愛餐会に先立つ礼拝の講壇に立たれたのは小堀新平牧師、この方は優れた経営者でしたが50歳を過ぎて教職の試験に合格され、立派な教会も建てられた方です。50年前はわたしと同じように滝沢陽一先生の翼下にあられた方です。弟子の説教をじっと聞き入る恩師の姿は美しい。
- ③ この日の企画がこのようになったのは功刀弘兄の深い思いと祈りによるものです。日本で、心療内科が標榜認可されたのは1996年です。功刀先生は40年以上前から甲府駅前、気軽に周りに気兼ねせず来診できる精神科医院を開業され、このような開かれた精神科医院は日本最初ではないかとわたしは思っています。（詳細はベストピアの中にあります葡萄園通信3号を参照）
- ④ この愛餐会の中で在るべき人の姿が無く、それは全員の思いが共通しいたことです。環境衛生の先駆者であられた中村健一先生（故人2003年召天）です。1960年頃から環境問題と取り組んでおられた少数派の先見性をもっておられた。神奈川教会で40年以上教会学校校長としてご奉仕された方。わたしたちの媒酌人をしていただいた方です。奥様お一人での出席でした。
- ⑤ 中村健一先生の親友島田行夫兄が席上で誰も想像していなかったお話に喜びがまし加わりました。それは1949年滝沢陽一先生がアメリカの大学に留学される折に、横浜港でクリーブランド号（二万トン）の船出を見送ったという63年前の話です。全員ホーッと感嘆の一瞬でした。
- ⑥ 最年少は65歳の影田慧子姉、祖父が滝沢四郎先生と親しい牧師さんで旧姓磯部さん今年双子のお孫さんに恵まれ忙しい毎日、古くて新しい心和む話、暖かさの中で終了。
- ⑦ この愛餐会はわたしの記憶を1960年（昭和35年）にタイムスリップさせてくれました。

「わたしは、あなたがたのことを思い起こす度に、わたしの神に感謝し、あなたがた一同のために祈る度に、いつも喜びをもって祈っています」（フィリピ信徒への手紙1章3-

4) 滝沢陽一先生のわたしたちへの変わらぬ祈りに支えられて各々の使命を果たし生きています。

前号に続き子供と孫に語るわたしの略歴です。
新しい出発に際しどう生きてきたかを振り返ってみます。

滝沢陽一先生と人生の節目

1960年私が大学に入学した時から今日まで信仰の種を芽生えさせて頂き、根を這わせ、命の水を賜り、今ある実を育て、祈り続けてくださったのが滝沢陽一先生と奥様の治枝夫人です。時代を追って書いていこうと思いますが、半世紀の節目をまとめました。

節目の祈り

- ①1960年12月25日 滝沢陽一先生より受洗
 - ②1962年11月7日 父召天の後、神奈川教会墓地鎌倉霊園に納骨の許可
 - ③1967年10月10日結婚式司式 東京 YMCA にて(婚約式も)
 - ④1996年5月26日息子譲治結婚式司式 大阪 YMCA
 - ⑤2004年2月18日母召天葬儀司式、納骨式 富士霊園
- その他、南足柄市自宅新築、譲治の筑後市自宅新築の折には祝祷
人生の大きな節目にはいつも祈りを頂いています。

1 学生時代 1960年4月～1964年3月

1960年（昭和35年） 滝沢陽一先生との出会い

わたしが始めて聖書を手にしたのは1959年高校3年生の夏でした。歴史の授業で内村鑑三の「二つの J」を教わったことにありました。教科書には載っていませんが担任の先生の尊敬する人物でした。受験地獄の中で心が洗われ、純粹に若き日の感動に素直に従って「主の道への光」が備えられました。学内の聖書研究会（4-5名）に参加し、教会も紹介され礼拝にも数度出席しましたが、受験勉強も厳しくなっていたことと、教会で歌う賛美歌に生来音痴のため、少々抵抗感があり、気になりながらも熱心にはなりませんでした。【関連記事①】（関連記事は末尾に記しました）

①神奈川教会 1960年（昭和35年）4月

わたしは横浜の反町駅近くに3畳の部屋を借り大学生生活を始めました。（当時は畳1畳千円）その下宿の窓越しに教会が見えました。迷うことなく日曜日の夕方、坂を下り坂を上って息弾ませて日本基督教団神奈川教会にたどり着きました。ちょうど、滝沢四郎牧師が礼拝案内の看板を片付けておられたところでした。「この教会では夕拝はないので来週来なさい」と暖かいまなざしでお仰ってくださいました。日曜日がとても待ち遠しかったことを今も憶えています。そして、その日曜日が最高に素晴らしい、「抱かれてある日」(The First Day)の始まりの日となりました。

教会は始めてではありませんでしたが、礼拝順序もわかりません。賛美歌は歌えません。うろたえていたわたしに、礼拝後声をかけてくださったのが功刀弘兄（慶應義塾大学医学部の4年生）でした。

② 功刀弘兄とご家庭の暖かさ

早速その日にご自宅に招いてくださり、ご家族（ご両親、お母様のご両親・三井さん・と弟さん達）の暖かい歓迎をいただきました。忘れられないことは、お母様が出して下さった食事の食べ方がわからなかった私に、我が子に教えるように丁寧に教えてくださいました。こんなに親切な人が世の中にいるのかと思ったほど、今までに体験したことの無かった暖かさを感じました。手とり足とりで行儀作法を教わりました。三井のおじいちゃま・おばあちゃまからはいつも励ましの言葉をいただき、よく褒めて頂き、功刀家を訪れると勇気が出て落ち込んでいても立ち直って帰ることができました。弘兄は医学部でしたので勉強が更に忙しくなりましたが、今度は弟さん、特に同じ教会であった忠夫兄が代わって面倒を見て下さるようになり、4年間で何度ご自宅におじゃましたかわかりません。卒業記念に弘兄から新約聖書略解と旧約聖書略解を頂き聖書の自学自習の手引きをさせていただきました。1967年のわたしの結婚式の司会をお願いしました。その後わたしの波乱の人生で移動が激しくても、いつも覚えて祈ってくださって、何かの節目には必ず声をかけていただき、今日に至っています。功刀家から教わったことは家庭でしか身につかない教養の大切さとクリスチャンホームの穏やかさ、心の広さでした。

功刀家の皆さんはわたしの小さな信仰の芽を優しく育てていただき、わたしが何処に居ようと覚えてくださった 功刀弘兄の篤い祈りに支えられわたしは養われました。

③ 聖書研究

教会は熱心に礼拝をし、木曜日の聖書研究も楽しみでした。全てが新鮮で、感動です。礼拝は滝沢四郎（陽一先生のお父様）時々、陽一先生（当時37歳）。聖書研究は陽一先生、レベルが高く 難しいヨブ記も預言書もこの頃教わりました。教会外の社会を見る目時局の読み方も夜遅くまで教わりました。先生の情報の速さと読みの深さには今も脱帽しています。夏休みは夏季学校が朝霧高原でありました。高原の中での礼拝のもつ靈気を感じることができました。知識は浅かったのですが心は素直に開いていました。今日まで一番熱心に聖書に向き合ったのがこの時でした。今その時を目指して完全自由人となりました。

④ 夏休みの出来事

こうして1学期が終わることになりましたが、学生生活、教会生活を通してわたしの心に燃えるものが育ったようで、何かをしなければならぬと感じるような変化が生まれました。自分の幸せ感が増し深まっていくにつれ、或ことが急に腹の底から湧いてきたのです。高校時代には気にもとめなかった、忘れて消え去っていた母校中学校（私は第一期の卒業生です）のことが脳裏をかすめたのです。教育レベルの低さ、教養の低さに甘んじてはいけない、這い上がれるチャンスはある。このことを熱く伝えたかったのでしょう。中学校の校長先生、恐らくわたしの知らない先生に手紙を書きました。「夏休み3年生に補習事業をやらせて欲しい。報酬が目当てでは無い」と。現場の先生方は、馬鹿な奴と思った人もいたかも知れませんが、これが実現するのです。昨今になってこの許可がよくでたなと思います。教友の苅部幹央兄が「そんなことがよくできましたね。」と言われ迷惑さが理解できたのは昨年2011年でした。

生徒たちも困ったようですが一人が「ただと言ってるのだから、受けてみよう」と音頭をとってくれ10人位の生徒が集まり、英語と数学を分かりやすく教えました。最後の日に一人の少女が加わりました。音頭をとった本人は熱をだして最後の日まで来れなかったとのこと。その少女が妻の厚子です。

⑤ アルバイトの始まり

その夏ごろから父の体調が崩れ始め、二人の弟を育てなければならない家計の状況は一段と厳しくなりました。横浜に戻ってアルバイトを探し求めました。仁平恵姉（滝沢陽一先生の妹さん。故人）が紹介して下さった家庭教師の先が原信夫さん（シャープ・アンド・フラッツの創始者）のお嬢様でした。奥様のお母様がクリスチャンで滝沢家と知己があったとのことで、このおばあさまに気にいられ恵みに満ちた収入をいただきました。大活躍のシャープ・アンド・フラッツは大晦日の紅白歌合戦のバック楽団となり、美空ひばりさんらとも親しくされ、原さんのご家族とテレビを見て、深夜原さんの帰りを待ち、お年玉をいただき楽しさ満喫のお正月を毎年味わせて頂きました。ジャズの王者といわれたカウツ・ベーシーにも招待していただき感激は今も色褪せることはありません。

⑥ 日本が内乱の危機になった年

1960年（昭和35年）は歴史的にも転換点と言われる局面が多く、目が回る年でした。

1月には東海原発電所の着工がありました。この原発は1965年初めて臨海に達し日本初の商業用原子炉となりました。（ちなみに、福島原発第一号機は1971年です）

5月1日ソ連が米軍機U2型機を撃墜（米軍が領空でスパイ行為をしていた）そのU2機が厚木基地から発進していた。新安保条約が核戦争の引き金になるとの懸念が広がり日本国民は大きなショックを受けた。

10月12日には浅沼稻次郎さんが刺殺されるという事件があり、クラブ活動の強制でわたしもデモに参加していた。6月15日は全学連のデモ隊が国会内に突入、警官隊と衝突して樺美智子さんが死亡。6月18日岸内閣が強行採決、日本中が騒乱になりそうな気配でした。

11月11日ベトナム戦争が始まる（1970迄続く）。

年末の12月27日池田首相が所得倍増計画を発表した。

フランスがサハラ砂漠で初の原爆実験を挙行。

世界は大揺れに動いていましたがわたしの魂は世の混沌の渦に巻き込まれることなく、一途に神の方向に導かれていました。

⑦ 恵みの受洗

12月の始めの聖書研究会が終わった後、滝沢陽一先生が「小原君は今度のクリスマスに受洗するように」との勧めがありました。同席の功刀弘兄が驚いて「そんなに早く、大丈夫ですか？」と言われ、わたしもその通りと思っていたのですが、「信仰とは、頭で理解するものではない。決断だ」と言われました。その決断の意味もわからず素直に聞き従いました。先生はこの時をおいて他に無いと見抜いておられたのです。ですから、信仰の証はできませんでしたが捕らえられていました。「神の業は誉むべきかな」

卒業後に始まる裏切りの人生脚本が赦され、護まれ、神の義の実をあふれるばかりに受けて、抱かれてある人生の隅の頭石を置いていただき、恵みの種を播いていただきました。

「この時をおいて他になし」これはわたしには真実でした。

1962年11月6日 父の召天

① 大学3年の秋、父は膵臓ガンを患って56歳で召天しました。余命数ヶ月と家族には告げられましたが母の祈るような看病で1年近く闘病生活をしました。本人に告知できない時代でしたので看病する家族は大変でした。わたしは遠くに離れておりましたのでその苦しみの臨場感は味わっていません。今、弟（67歳）が膵臓ガンと闘っていますが壮絶です

弟は父を身近に見ておりますのでその内心を察するにはあまりあります。

その年の8月帰郷の折に父と銭湯に行きやせこけた背中を流したのが最後でした。その時父は死期を悟っており、大学を中退しようと考えていたわたしを見抜いて「俺が死んでも学校はやめるな。お前の学費はためてある。誰にも気兼ねはいらない」と言ってくれましたが、母は当時の最先端医療を医師に頼んでいましたので家計は火の車であったと思います。（父の死後もこの家計の苦しみを誰もわたしに告げる者はいませんでした）

父の生涯は忍従の一字でした。損と得とあらば損の道をあえてとり、他人の為に尽くした人でした。父ほど他人の為に働いた人をわたしは知りません。母もよく従い働いていましたので、わたしは戦時中戦後の食糧難を味わっていません。空腹感を覚えたことは一度もありません。芋がゆ、すいとんも食べましたが、それはおいしいものと感じ、今でも好物の一つです。父の遺骨は神奈川教会の教会墓地に入れてくださいました。当時は納骨される方も少なく余地があったのですが今は入りきれません。墓石に父の名前が刻まれています。後に続く方は別版の表示となり、思い起こす度に申し訳ないと感じています。

教会では毎年11月第一主日に召天者記念礼拝をしていただきました。わたしが行けなくても大切に記念日を覚え祈っていただきました。父の遺骨は1995年富士霊園に移しました。母がその後入りました。墓碑名は「希望」です。

② 3年生で就職を決める

この年義兄の紹介で、卒業後の就職先を決めました。在学奨学金が目当てでした。

この会社の入社試験は社長面接だけでした。初対面の社長の質問は「君が尊敬する経済学者又は経営者は誰かね？」と問われ、躊躇なく「矢内原忠雄先生です」と答え、社長は「よし、わかった。帰ってよろしい」という面接試験が終わりました。「駄目かな、まづかったかな」と思いましたが他に答えようがありませんでした。後日合格通知と奨学金を頂くことになり、中退を免れました。温厚そうな人柄が思い出されます。

このような訳でわたしは就職活動から解放されてしっかりと教会生活を守ることができました。

③ 中村健一先生の援助

父の闘病を見守ってくださっていた神奈川教会の教会学校長、中村健一先生が自宅に一部屋あるので引っ越ししませんかと勧めてください、この年の始めから先生のご自宅にお世話になりました。わたしが卒業後は弟が引き続きお世話になりその期間は8年間に及びました。導かれて弟も受洗しました。ご両親もご兄弟もよくしてください、寛容と慈悲の深さ、教養の違いの大ききさを感じました。（やっぱり、違うんだなあ）お父様は第一銀行の取締役をなさっていました。後年ご両親の相続をわたしにさせていただくという光栄を賜りました。先生は慶応大学医学部で功刀弘兄の先輩で、公衆衛生を専門とされ環境問題が社会化する以前からの先駆者でした。体の丈夫でないわたしにはお声はかかりませんが、頑強な青年には実験室に呼ばれて共同研究もされ、その熱心な学者姿勢は多くの人から賞賛されていました。

1967年10月わたしたちの結婚の媒酌人をお願いし快く受けてくださいました。

2003年5月69歳で召天されたのですが、その7年前に相模原南教会で説教をお願いしました。その折りに、ご自分は前立腺ガンに罹っており治らないと仰ったのです。先生らしく実に淡々と静かに講壇から語られました。殆どの方が聞き間違えるくらいの態度でしたしその後も入院されるということもなくわたしたちは「聞き間違った」のだと信じていました。奥様からわたしが呼ばれたのはその年の始め頃でした。初めの頃は起き上がってお話いただきましたが、次第に弱っていかれましたが笑顔は消えることはありませんでした。わたしの仕事の様子も尋ねてください、「それは、良かったね」と何度も笑顔で励ましてくださいました。

オルガニストで医師でクリスチャンと共通する人がシュバイツァー博士ですのでわたしたちは神奈川教会のシュバイツァーと呼んでいました。最後のお見舞いの時もお元気でしたので音のいいMDを持参したのですがそれを使う元気は無かったと後日奥様から伺いました。それほどに最後まで自然体で生きた方です。いつも神様のふところに抱かれておられるようで静かながら何にも臆することなく勇敢で弱い者をいたわり、他人を責めず、真に信仰の人であられ、わたしたちの模範であり、誇りとする方でした。

1963年11月9日 国鉄鶴見事故。

今回の愛餐会でも多くの方が話されました悲痛な事故に、高橋義規兄、横尾、塩見姉の3人が遭遇、高橋兄は一人息子さん、二人の姉妹は東北から来られたばかりでした。私は高橋兄とは同じ日の洗礼を受けて、特に可愛がって頂いた先輩でしたので、私が横浜にいたらご一緒させていただいたことは間違いありません。上京の目的は魅力的なものでしたが、私は父の一周忌で大阪に戻っており事故から逃れました。遺体確認に今回参加の多くの方が現場に行かれ壮絶な有様を直視されたのでした。【関連記事②】

2 サラリーマン時代 1964年から1979年

1964年（昭和39年）社会人になる

①1964年卒業時、恩師中村勝己教授からいただいた記念の色紙には「まず神の義と神の国を求めよ」とあります。これに意識が向かうには半世紀かかりました。職業に従事しながら、先生の期待には応えられない不器用な生き方は70歳まで続きました。

②卒業式を待たず3月にわたしは既に決まっていた会社に入社、この年の採用は11名で大阪大学の工学部の人もありました。まず現場実習から始まり、工場長は宝物のようにわたしに接してくださいました。3ヶ月後、本来のポジション営業に配属、。課長の第一声は「東京に行って、大学の卒業名簿を手に入れてきなさい」でした。後から思えば当然のことでしたが、わたしは実行せず、課長と上手くいかず6月末で退職しました。僅か3ヶ月の勤務でしたので、当然のこととして人事部から年末迄に奨学金の全額一括返済を申し渡されました。

③7月始めに滝沢陽一先生から磯辺康一郎さんが神戸に転勤になっているので訪ねてみたらどうかと連絡をいただき、早速にご自宅に伺い、お嬢様の慧子さんに迎えられました。丁度本社から人事部長さんがこられており、事情を伝えると、磯辺さんの推薦で入社が内定しました。予想外の進展で12月には賞与を頂き、前の会社の奨学金の半額に充当、残りは日本信販から借りて清算できました。

東京オリンピックの年で東京渋谷の独身寮で真に楽しい生活が始まりましたが、生来の扁桃腺炎に苦しみ欠勤が増え、医師の勧めに従い12月24日に渋谷の日赤病院で手術、術後熱が下がらず、盲腸炎の併発といわれ、引き続いて盲腸炎を手術、退院は翌年1月15日、寮には迷惑をかけたことなく大阪に戻りました。この長い列車の旅（新幹線、ひかり4時間、こだま5時間でしたがスピードの速さに体がついていきませんでした）は回復を遅らせることになり後の10年は胃腸炎、十二指腸潰瘍、肋間神経痛に悩みながらのサラリーマン生活をしました。

④1965年から会社が国鉄関連の鉄道保険部と合併することになり、独身寮の売却、国分寺への移転と色んな影響が出始めました。

国鉄は合理化を迫られていましたので、労働組合対策の一貫として民間会社でも組合活動の活発な所なら合併を受け入れるだろうということで、わたしの勤務する会社に急遽、白

羽の矢が向いたのです。合併によって組合活動は益々活発になりますが、国鉄としては急先鋒の組合が民間会社になったので改革はやり易く成ったわけで、その後の改革は周知の通りです。

わたしは会社にお世話になっている意識が強く悉く組合と対立し組合にとっては目に余る存在になっていました。

1967年10月10日、厚子と結婚、

司式は滝沢陽一先生、媒酌人は中村健一先生節子夫人にお願いし、披露宴の司会を功刀弘先生に依頼、東京YMCAにて挙式。

1970年初めての海外旅行と簿記

組合活動に問題ばかり起こす私に会社が配慮していただき4ヶ月間の海外研修に出してくれました。当時損保は20社あり各社の代表に大蔵省からも加わり毎年カリフォルニアのバークレイの大学で行われていました。最年少で29歳の誕生日をそのメンバーが祝ってくれました。

そのあるはれた日に校庭に寝転んで空を見つめながら「ヨーシ。帰ったら会社を辞めるぞ」と叫んで側にいた金谷さん(参加者の長老)がビックリされたそうです。後年、金谷さんは「冗談だと思っていたら、本当に実行したんだね」と呆れつつも褒めてくれました。辞める決心をしていたので研修が終わってもすぐに帰国せず、ニューヨークからロンドンに渡り、スイスをくまなく周り帰国しました。

バークレイで英語の簿記の本を買いました。当時直属の上司で主任の木曾茂明兄が「君にはサラリーマンは無理だ。体が弱いくせに喧嘩は強い。みんな困るとるんやで」弟を諭すようにいっぱい愛情をこめて忠告をしていてくれました。「自分は今、税理士の勉強をしている。会社も今後はどうなるかわからない。いざという時のために個人で備えをしておかねばならない。一緒にやらんか?」と勧められていました。戻りまして木曾茂昭先輩が最初に教えてくれたのが減価償却で、チンプンカンプンでした。

1971年7月14日(昭和46年)讓治誕生

会社もほとんどわたしのことで困って少しは大人になれ、おとなしくなれと願って、この年わたしは組合の委員長が課長をする大阪支店に配属されました。

組合はユニオン形態でしたので社員は必ず組合員にならなければなりません。課長までが組合員です。大阪支店は組合幹部が揃っている橋頭堡でしたが、ここでもわたしはスト破りをして仕事についたのです。困ったのは組合側でなく会社側でした。そんな矛盾があっというのかと疑問を持ちながらもわたしは個人闘争を楽しんでいました。

転勤は4月、妻は中村健一先生の紹介で横浜の慶友病院で出産の予定でしたが、大阪では近くの医院にかかりました。何度も逆子の矯正をしていましたが落ち着いていた時でした。出産の日は遅れに遅れました。分娩が始まってもし出てこない。逆子ではない。医師が手を挿入してかおの位置が反対になっていることが分かり、帝王切開になりました。医師は帝王切開ができませんでしたので関係医師を呼び寄せ、到着、危機は迫り、妻に麻酔をする時間はなく直ぐに切開して取りだしました。子供の危機が切迫していたので妻を省みるいとまがなかったのでしょうか、妻が「先生麻酔をしてください」と叫んで医師が気づき麻酔をしてくださいました。讓治は生死一皮で生まれた子です。医師が二人目は無理ですと言われました。

1972年（昭和47年）二度目の退職

1972年の始めある会社から就職の話があり、3月に保険会社を辞めました。

入社させていただいた磯辺康一郎さんに挨拶できませんでした。生前の磯辺さんにお会いすることもできず、葬儀に参列させていただきお詫びを申しあげました。

ある会社は入社を断ってきました。その代わりに2年間家賃を無償にしてくださり、税理士試験に集中できる環境をいただきました。。妻が譲治を背負って日当千円のお手伝いさんをして家計を支えてくれました。

1973年12月税理士試験合格、翌年南足柄市に家を建てる。

1973年(昭和48年)8月試験、12月税理士試験に合格。

この間5ヶ月某公認会計士事務所でアルバイトをしました。所長に好かれ他の方より多い初任給55000円でした。(会社を辞めなければ11万円)

この年に第4次中東戦争が始まり、オイルショックと物価の高騰が加速、

翌年1974年の消費者物価指数は23%、狂乱物価の時代です。

1974年(昭和49年)3月19日税理士登録、近畿地方税理士会に登録するも、6月には南足柄市に引越し東京地方税理士会に移籍。

南足柄市には10年前に学友のお母様からの紹介で投資目的で50坪の借地権を買ってありました。学生時代のアルバイトの預金がありました。

住む所がなくなるので、その借地権の上に家を建てようと妻がいました。わたしには思いも及ばない事でしたが、妻の友人からお金を借りて、預金200万円を元で800万円の家をミサワホームで建てたのです。

南足柄市に知人はいません。税理士といってもどこに仕事があるかすらわかっていないのです。借金の返済の約束は果たさねばなりませんので、日本マンパワーに依頼して月給20万円の会社を探してもらうよう依頼、ほどなく、藤沢の会社に決まりました。

1974年(昭和49年)9月第4番目の会社に就職、

①悪魔の5年間が始まります。

語りたくありませんが詳細は1998年「オフィスと道標」に記し、中小企業を研究する学生の資料として岩波ブックセンター刊の責任ある本として多くの図書館に納められています。1998年7月号、岩波の「図書」には次のように掲載されています。「混迷を極める現代社会が抱える根源的問題指摘とその本質的な解決策を世に問う職業人による論文集」この5年間の日々の祈りは、「危険と暴力と窮乏から救いたまえ」でした。

滝沢陽一先生が鎌倉教会にこられ何度も実情を聞いていただきました。人生で最も悲惨で心が荒むときでした。この5年間で学んだことは、経理、人事、営業、輸入業務、銀行交渉、大企業を操る方法と範囲は広くビジネスの世界に怖いものなしの自信をつけました。特にオイルショックで原料の入手が困難になった時にはアメリカの原料メーカーに直接交渉に行かされ、楽しい旅もしました。

1979年3月原料買い付けアメリカに2回目の出張、帰国の飛行機の中で退職の意志表示、長い手紙を書き、悪魔から逃れるように辞めました。その後の復讐は凄いものがありました。2年間無視を続け相手も諦めたようです。ここで戦わなかったことは恵みの賜物でした

②1974年妻、石井実氏と出会う

南足柄市の水道メーター検針員の紹介で石井水道さんにパートに採用、能力が認めれ正社員となり、南足柄市に来て最初の地縁が繋がりました。後年税務顧問先、長田明氏、伊

従秀夫氏を紹介していただく。石井家とは家族ぐるみのお付き合いとなり、妻は管工事業界初の中国視察団に加えていただき、最も初期の中国旅行をしています。石井夫人とはヨーロッパ旅行にお供してよき時代を過ごすことができました。ご夫妻は既に故人、ご長男夫妻との懇親は続いています。

3 税理士時代 1979年から2011年

1979年8月20日(昭和54年)税理士再開。

①二度目のことゆえ困難は覚悟し、当面の生活のため学習塾を始めました。その学習塾の名前が「ベストピア」です。

熱心に必死の思いでやりました。直ぐに生徒は90名になり、横浜国大の学生さん二人を雇い入れ支援をいただきました。2011年南足柄市監査委員最後の年の4月に杉山君が出世され教育委員会に転任、間もなく校長になられるとのこと。アルバイトさせていただき感謝していますと挨拶されてとても嬉しかったです。

②1979年9月ベストピア1号発刊、表題は「希望」です。

塾は順調で翌年の7/28から8/15日まで妻と共にアメリカ大陸横断旅行をしました。譲治9歳、妻の母が面倒をみてくれました。

③追加しておきたいこと。1979年1月1日滝沢陽一先生訪問、治枝夫人が初めて買われた宝くじが20万円当たり、みんなで大喜び。わたしも翌年20万円当たり1月10日の源泉所得税が支払えました。

1980年1月顧問先第一号と弁護士杉崎茂先生

税理士会の高橋先生から電話で近くの法人を紹介して頂き、税理士業務第一号の記念となりました。中家さんは地元の人でなく早稲田大学卒業の苦労人でした。この方の紹介で弁護士杉崎茂先生と出会い、先生の主催される相模会に参加させて頂き、その勉強会を通じて、瀬戸和美夫妻、長嶋徹夫妻、一寸木正昭夫妻、杉山市好夫妻、小野吉郷夫妻、望月郁文夫妻を顧問先になるよう働きかけていただき事務所の基盤が固まっていきます。わたしの事務所の親柱を造ってくださいました。1986年には開業7周年記念講演会にて杉崎茂先生にお励ましの言葉を頂戴しました。先生は2008年から日本弁護士会副会長に奉職されました。

1984年小田原の新幹線ビルに事務所移転

愈々、わたしの小田原時代がはじまります。

1984年イタリアSPC社と世界的に認知されていた技術の園池製作所が共同での関係会社を作りその会社の顧問を12年間させていただき、2年に1度ボローニア本社訪問とヨーロッパ各地を旅行しました。

1985年(昭和60年)4月28日、教会席を神奈川教会から相模原南教会に移籍。

①再び滝沢陽一先生の翼下に入らせていただきました。神奈川教会では付属幼稚園の顧問をさせていただき飢えを凌がせていただきました。

②小田原地方税理士会30周年記念誌の編集に貢献感謝されるも、支部報のスタイルを勝手に変更したことから歴代の会長に非難され、この年から役員を永久除名(会員であるこ

とは会費を払うことで除名できない)される。このことで会務のお世話をしなくてすみ税理士会から自由になって助かりました。

1986年(昭和61年)8月29日滝沢陽一先生とイスラエル

① 佐藤邦海牧師の遺体を引き取りに滝沢陽一先生とイスラエルに三度目の旅行、途中パリでテロ事故に遭遇するも全く巻き込まれず厳戒態勢のイスラエルに入国、遺体確認をされるとき滝沢先生はわたしのショックを慮り「君はここにいたまえ」と言われお一人で顔を壁に突っ込まれ確認されました。その後の滝沢先生の取られた行動は、今も色褪せることなくわたしの脳裏にあります。

余談ながら、この時の飛行機代エコノミークラスで1人98万円、まだ貯金がありません。丁度前月にダイナースカードを入手していました。その限度額が200万円、二人分の飛行機代が辛うじて支払えたのです。この件に関しては奇跡が重なり恵みがまし加わりました。遺体の移送費は外務省でしたがイスラエル政府の検問はきびしかったです。

②この年にナックビルに移転。毎日小田原城を見て、三原島の噴火もこのビルの窓からみました。

1987年(昭和62年)岡野嘉宏先生と出会う。

TAの研究を始める。TAトレーナーコースで田舞徳太郎氏と出会う。

1988年(昭和63年)坂村真民先生と出会う

田舞徳太郎氏の研修センター完成除幕式で坂村真民先生と共にテープカットをさせていただく。

1989年1月7日(平成の初日)

①消費税の研修をナックビルで開催中、年号決定のニュースを研修会参加者に知らせる。消費税の研修会はどこよりも早かった。

②その年の5月2年10ヶ月のナックビルから鴨宮の秋山ビルに移転。

1990年高校の同級生、張志朗君から突然の電話、

私の住所が名簿から消えた。行方不明者になっている。「君からは、内村鑑三、天野貞祐の本をもらったことを覚えており、気がかりで苦勞して探し当てた」同窓会は苦手でした。過去を見る暇もなかったのです。

1991年11月 柏木晃二君独立

①「起きよ、光を放て。あなたを照らす光は昇り、主の栄光は、あなたの上に輝く」
(イザヤ書60章1節) 川島牧師からのメッセージです。

②5月「わたしの幸せ、あなたの幸せ」を出版、TAのテキストとして2011年迄ロングセラー この年から毎年1冊10年間出版

「わたしの幸せ、あなたの幸せ」は田舞徳太郎氏のご支援で全国のJCのメンバーに読まれ講演依頼で全国行脚始まる。

福岡で酒井智子姉(小部保育園園長)と馬場政英兄(後に息子の媒酌人を依頼)に出会う。

1992年(平成4年)第3回朴の会全国大会主催

①1992年1月小部保育園園児による、ちぎり絵(赤い服)をいただく。生涯の宝として保存しています。

②5月30日第三回朴の会全国大会を岐阜県白川で開催。安江兄の支援をいただく。

イエローハットの鍵山秀三郎氏と出会い掃除道の指導をいただく。

1993年（平成5年）天野隆先生、川岸清先生と出会う

①賃金体系の論文が公認会計士天野隆先生のご尽力で中小企業金融公庫の雑誌に掲載され、後に「納得できる給与体系」（中経出版）となる。この本は中小企業向けの賃金体系では初めてのものであったので影響が大きかった。特に労働問題を得意とする弁護士高井信夫先生の目に留まり、沢山の大中小企業の紹介をいただく。

②更に税理士川岸清先生の熱心により高岡整志会病院の院長川岸利光先生に知己を得て、今日に至るまでご支援を頂くことになりました。「高岡整志会病院」でホームページを参照ください。2000年9月26日福岡市の愛甲幸子姉が他の病院では困難な頸椎の難しい手術をされ、2012年10月パラリンピックの卓球で3位になるほどの活躍ができています。この絆によって私は引退後も富山と福岡には遊学させて頂いております。川岸清先生、川岸利光先生については次号のベストピアに記します。

1994年3月29日から4月7日、滝沢陽一先生を団長とするイスラエル旅行。

①エイン・カレムの訪問教会と山上の垂訓の教会（野外礼拝）で滝沢先生に説教を賜る。「念ずれば花ひらく303番碑」（平和を祈る）をエルサレムのヘブライ大学植物園に献碑
②譲治は大学を卒業し、農業に夢をもち福岡県農業試験所にはいる。

1995年（平成7年）息子譲治の奇跡の交通事故（後述・関連記事）

阪神淡路大震災で教友、笹倉兄の実家が罹災

1996年5月26日譲治結婚式

①大阪YMCAにて滝沢先生司式をいただく。

大阪YMCAはこの結婚式を最後に式場業務を中止された。

今もって最高の式でした。

②6月渡辺和子先生を小田原に迎え講演会を開催。

③ダビデ3000年祭にヘブライ大学植物園に241本の木を植樹して感謝される。

日本全国の方からご支援をいただきました。記念証書は各献木者に送付された。

④7月10日譲治夫妻と寺田一清先生と共にイスラエル旅行し日本庭園の進行状況を確認しました。

1998年事務所を久野に移転

1998年森信三先生全国大会（松山開催）で「坂村真民のキリスト教的側面」について講演させて頂く。寺田一清先生のご配慮による。

2001年9月からイスラエルは分離壁を作り始める。（9.11事件の影響？）

2001年諸団体、諸協会の理事監事を辞任。第一回の身辺整理をしました。

2002年息子に農業を断念させる。非常に辛かった。

2003年5月9日中村健一先生召天される。本当に悲しい別れ。

2004年（平成16年）2月18日母召天（93歳）司式滝沢陽一先生にお願い。

富士霊園の「希望」の墓碑、納骨式、滝沢陽一先生にお願い。

母の絶筆は「世路有風波 人心如海水」でした。12年間ベストピア新年号に起筆してくれていました。

この年父の遺骨を神奈川教会の鎌倉霊園から移動、非常に面倒な手続きを神奈川教会の多丸和夫兄が忍耐強くしていただきました。

2005年 千田和弘君独立

2005年（平成7年）7月24日

岸達司先生のご配慮で曹洞宗東泉寺本堂で第31回東泉夏季大学講座にて講演をさせていただきます。テーマは「坂村真民の人と詩魂」

岸達司先生の人柄については次号に記します

2006年 浅沼義弘君独立

2007年 辻本郷税理士法人と合併。南足柄市監査委員就任

2009年 息子家族全員（孫2人を含む）が龍見越の養子となる。

龍見越氏は嫁の貴子の母方の祖父です。（2012年10月15日家族全員に看取られ急逝）

2011年12月全ての職業から引退、完全自由人となる

4 滝沢陽一先生の寛容

学生時代の4年間、わたしは熱心に求道しました。

正当なキリスト教の基礎を教わり、聖書研究では新旧約聖書をほぼ全体目を通す程のご指導を受けました。主日は滝沢先生のご自宅で朝食か昼食を頂いていました。

サラリーマン時代（15年間）の前半は転勤等で天王寺教会、神奈川教会と変わりましたが、かなり熱心に礼拝に出ました。後半の33歳から38歳までは波乱と悪夢の時代で安息日がなく乱れ、困窮の中で、鎌倉教会におられた滝沢先生のご自宅に時々逃げ込んでいました。独立後は神奈川の距離が遠く小田原教会に暫く出席しましたが、1985年に相模原南教会に移籍しました。70歳までの現役時代には月1度がやっとでした。

然し、この間に、「偶像礼拝の終焉」「花のなかの碑」「イスラエル略史」を書く機会があり、聖書を丁寧に読みました。

この独学の導き手は専ら滝沢陽一先生の「エベネゼル」16「ぶどう園」158「葡萄園便り」でした。神学書や説教集を読む時間はありませんでしたが、それなりにまあまあの論文で、これから大いに役立ちそうです。

相模原南教会の礼拝後には殆ど毎回、ご自宅で治枝夫人の手作りの美味しい昼食を頂くのを常としました。71歳を超えた今でもそれは変わりません。先生の身近くに長く留まらせて頂き甘えて余りあるおもてなしを受けています。わたしの情報の80パーセントはこの日曜日の先生のお話が源です。先生の鋭い質問に不思議に答えられるようになっていったのは、智慧が養われていたからだと思います。先生は仏教の鶴見大学で文学部長をされる程に、広い識見をもっておられ、歴史や世相の移ろいをよく観察されて、世俗的なわたしの話に熱心に耳を傾けてくださいます。話し合いは時に夜に及び夕食までいただくこともあります。先生のお体を考え早く切り上げねばならないといつも思っているのですが、何時の間にか時間が過ぎて安息の場の虜になってしまうのです。

わたしが坂村真民先生の税務顧問になって教会より松山に行くことが多くなった時も、何も仰らず、むしろ多くの質問を頂き、仏教のこと、特に禅宗のことを詳しく教えていただ

きました。わたしの間違いを正してください。現代のキリスト教神学、異端の神学もキッチリ、原理原則から、読むべき書籍まで教わっています。今、それらの書籍に挑戦していますが、学問ですから難しい表現に苦闘していますが、要点はどの時代かで滝沢先生に教わったものばかりです。その確認と信仰の深耕がわたしの急務に感じているところです。正しいキリスト教を分かり易い言葉で書き記し滝沢先生にチェックしていただきたいと考えています。後数年はかかりますので、お元気で透析治療に励んでいただきたいです。

以上のように振り返って、この世の生活は多くの人に支えられ助けられた日々が連綿とありました。危機一髪のところでも幾度助けられたかわかりません。然も自由に、欲するままにことを成し、願ったことは、全て成就しこれほど素敵な人生があっただろうかと思うばかりです。名田守氏の言葉をよく思い出します。「あなたの為に天使が忙しく働いておられます」男性には珍しく靈感の強い方でした。キリスト者であられたかどうかわかりませんが、わたしが天使の働きを深く学んだのは最近のことです。

加藤常昭先生の「ヨハネ黙示録」を読むまでは正確な知識はありませんでした。

何事によらず中途半端な知識、教会生活に寛容に忍耐をもって、わたしの為に日夜祈り、執り成し、正しい方向に導いてくださったのが滝沢陽一先生です。誕生日のメッセージを数年分をまとめて読み返し呼びかけを新たにしています。

「知る力と見抜く力とを身に着けて、あなたがたの愛がますます豊かになり、本当に重要なことを見分けられるように。そしてキリストの日に備えて、清い者、とがめられるところのない者となり、イエス キリストによって与えられる義の実をあふれるほど受けて、神の栄光と誉れとをたたえることができるように。」（フィリピの信徒への手紙 1 章 9 節—11 節）

恐れおののきつつ自分の救いを達成するように努めなさい。あなたの内に働いて、御心のままに望ませ、行わせておられるのは神であるからです。何事も、不平や理屈を言わずに行いなさい。そうすれば、とがめられるところのない清い者となり、よこしまな曲がった時代の中で、非のうちどころのない神の子として、世にあって星のように輝き、命の言葉をしっかり保つてでしょう。こうして、わたしは、自分が走ったことが無駄でなく、労苦したことも無駄でなかったと、キリストの日に誇ることができるでしょう」（フィリピの信徒への手紙 2 章 1 2 節—1 6 節）

「わたしは、既にそれを得たというわけではなく、既に完全な者となっているわけでもありません。何とかして捕らえようと努めているのです。自分がキリスト イエスに捕らえられているからです。———なすべきことはただ一つ、後ろのものを忘れ、前のものに全身を向けつつ、神がキリスト イエスによって上へ召して、お与えになる賞を得るために、目標を目指してひたすら走ることです」□（フィリピの信徒への手紙 3 章 1 2 節—1 4 節）

「主において常に喜びなさい。重ねて言います。喜びなさい。」（フィリピの信徒への手紙 4 章 4 節）

目指すべき最後の目標に向かって生きていきます。

関連記事

(1)坂村真民先生のユーモア

全くの余談ですが後年1988年に出会う坂村真民先生がわたしへの内緒話として語ってくれたことですが、「教会に賛美歌がなかったら、わしもクリスチャンになっとったかも分からん」と言われました。小学校の音楽の授業で「君が代」を歌わされたとき、「き・み・が」と歌ったとたんに、「もういい」と言われみんなの笑い者にされたので音楽が大嫌いになったと笑顔でユーモアたっぷりに話されたことがあります。

(2)一人息子の交通事故

①一人息子の交通事故死はなぜか多いと私は感じています。数年後私の甥が大学院に入った直後に友人の運転する車の助手席に乗っており、数日後召天しました。最後に遺した言葉は、両親に「すいません」でした。私は遺体を抱く義兄と共に舞鶴の現場から大阪までタクシーで3時間半かけて走りました。葬儀は梅花教会で悲痛な思いで執り行われました。甥の想いが両親を信仰に導き、義兄は梅花教会で長年にわたり会計役員を奉仕しました。

②1995年2月譲治が全く同じ状況で大型ダンプカーがセンターラインを超えて飛び込んできて正面衝突しましたが、殆ど無傷で生還しました。この時の息子の話は「飛び込んでくるダンプカーがスローモーションで来るのが分かった。ここで死んでたまるか、と思ったら、外へ投げ出された。頻車の国道3号線で後続車が無かったので助かった。その時、助かったと叫んだ」2つの奇跡が同時に起きたのです。息子はすぐに近くの民家にトイレを借りに入り、周りの人を驚かせたそうです。

③この事故に先立つ2年前、1993年、わたし自身の運転で高校生の一人息子さんを跳ねました。いわゆるサンキュウ事故と言われる初歩的な不注意でした。国道225線は交通量の多いことで有名ですが、夕方、蕎麦屋さんに入る為に国道を右折せねばならずそのチャンスを待っていましたら、対向車線を走っていた車が親切に止まってくれました。「ありがとう」と合図して発車したところ、その後ろを凄いスピードで走っていたバイクがわたしの車の後部に激突、爆音はかなり遠くに聞こえたとその近隣の人が集まってきました。少年は空中で回転してわたしの車の前方7mにうずくまって落下、起き上がらないのです

「生きていてくれ」と祈りました。やがて救急車が彼を搬送し病院へ、それから3時間を超える現場検証と松田警察での事情聴取、担当の警官が最後に「あなたは幸運な人だ」と言われましたが、その時は意味が解りません

解放されたわたしは病院へ急ぎました。地元の人「重傷間違いなし」と言っていましたし、わたしも由々しい状況は覚悟していました。病院につくと平静で何もなかったかのごとく、かえって不気味でした。不安が高まる中、少年のことを尋ねると「母親が連れて帰った」と言うのです。怪我の状態は聞いても「解りません」。不安が募ります。自宅を訪ねると母親が「たいしたことはありませんから帰ってください」と不機嫌な顔で仰るのです。後遺症の補償もありますのでいつでも連絡してくださいと言ってその夜は帰りました。翌日、翌々日お見舞いに伺いました。お母さんは怒り出したのです。「貴方は内の子供をだいなしにする気か?」わたしは狼狽するばかりでした。結論は、彼は高校生でバイクは禁止されており、違反者は退学処分になるので、両親は必死で事件をもみ消したのです。かくてわたしは人身事故で罪を問われず、物損事故賠償で終わりました。ここで警官の「貴方は幸運な人だ」の意味が解ったのです。わたしの車をいつも守ってくれている自動車修理業の社長さんの話では、事故は99%死亡事故につながっていると聞かされました。少年も一人息子さんでした。